

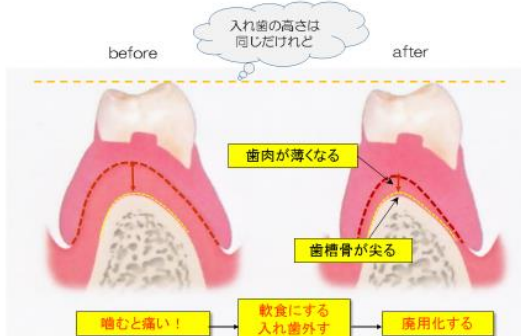


# 生命にかかわる「誤嚥性肺炎」を予防 食べられる喜びを一人でも多くの人に 訪問歯科センター NEWS LETTER

平成30年 夏号  
川西市歯科医師会立訪問歯科センター  
協力(一社)TOUCH  
<http://www.touch-sss.net/>  
住所:川西市火打 1-1-7  
TEL:072-757-0418  
FAX:072-764-6480

## ●●低栄養になると口腔は どうなるの?(オーラル・フレイル)●●

低栄養のまま立派な義歯を入ると噛めるのか?



「館村 卓著: 摂食嚥下障害のキュアとケア 第二版 (医歯薬出版) ならびに館村 卓著: 口腔ケアプログラムの作り方 (永末書店) より」

これまでに、口から食べないと消化管活動が低下し、身体は低栄養状態となり、そこから始まるサルコペニアによって、身体リハビリテーションは困難になり、代謝機能も低下することで低栄養が改善されなくなる(フレイルティ サイクル)をお話しました。フレイルティ サイクルが形成されると、ますます生活参加が難しくなるためまず低栄養の改善が重要です。では、低栄養になると口(腔)は、どうなるのでしょうか。もちろん、口腔器官にも影響がでてきます。長期の低栄養で歯肉は薄くなり、弾力性をなくし、義歯は合わなくなり、食事時にうまく咀嚼

できなくなることで、装着への意欲は低下します。また、低栄養になると全身の骨がもろく、やせてきます。歯を支える土手(歯槽堤と言います)の骨(歯槽骨と言います)も、同様に著しく吸収されます。その結果、残っている歯は動揺し、また総義歯を入れないといけない様な、全て歯を無くした状態であれば、義歯を維持できなくなります。更に、やせてきた歯槽骨の頂上は鋭利になるため、薄く弾力性を失った歯肉が義歯との間に挟まれることで、装着して咬んだ時に、痛みを覚え装着への意欲は低下します。その結果、低栄養の改善に必要な消化管運動を促すための経口摂取は困難になっていきます。経口摂取が困難になった状態で長期間経過すると、重篤な問題が生じます。さて、それは何でしょう。次号のテーマ「非経口摂取での経過は、非経口摂取を継続させる!」でお伝えします。

## ●●利用者様の声をご紹介します●●

(多田 10代 女兒)

超早期出産の為、肺の発達障害があり、幼児期より気管切開により換気を行う。また、7歳時、胃ろう(PEG)施術。呑気改善と胃逆流改善を主訴にて1年前より訪問開始。

～ご家族様より～

ちょうど、1年前から訪問して頂き、その頃から比べるとベット上の体幹が安定し、表情が豊かになりました。食事の時に、スプーンを咬むことがあり、時間がかかっていましたが、スムーズに食事ができるようになりました。また、歯ブラシの時も同様に、歯ブラシを咬む事が少なくなり、やりやすくなりました。呑気および逆流もかなり改善しました。

## ●●スタッフ紹介●●

一般社団法人川西市歯科医師会  
副会長 松浦 孝治



私が開業した頃(30数年前ですが)、歯科で訪問診療をするという事は全く考えてもみませんでしたし大学のカリキュラムにも

ありませんでしたが、時代の流れと共に今となっては当たり前になってきました。歯科の訪問診療というのは、「通所困難」な方が対象ですので、元々、体力の弱っている方が多いと思われます。当センターでは、そういう方のために、治療はもちろんのこと、口腔ケアを通じて、最後まで口から食べる支援を目標としています。